

「苫小牧 CCS 促進協議会」 設立趣意書

地球温暖化の影響は世界中で様々な形で現れ、早急な対策が求められている。温暖化の原因は、メタンや二酸化炭素（以下「CO₂」という。）をはじめとする温室効果ガスとされており、そのうち最も温暖化への影響が大きい CO₂の排出削減が喫緊の課題となっている。

CO₂の回収・貯留の技術である CCS は、国際的にも大幅に CO₂の排出を削減できる有力な手法として位置づけられ、北海道洞爺湖サミットにおいても「大規模な CCS の実証プロジェクトが開始されることを、強く支持する。」と宣言されている。

我が国においては、温室効果ガスの 25%削減を明言するなど、温暖化防止に対する積極的な姿勢が示されており、この CCS に関しても 2020 年の実用化に向けた大規模実証試験への取り組みが行われている。

こうした中、2009 年には苫小牧沖において実証試験の候補地選定のための地質調査が実施され、有力な候補地の一つとなっている。

苫小牧市においては、1973 年に「人間環境都市」が宣言されるなど早くから環境に対する意識が高く、最近では 2009 年に策定された「地球温暖化対策地域推進計画」に基づき、更なる環境意識の高揚に向けて市民一丸となった取り組みが推進されている。

また、苫小牧地域は、製紙業、石油精製、自動車、電力のほか、化学工業、非鉄金属業など排出源となる企業、並びに関連する多種多様な企業が集積している工業地帯であるとともに、陸・海・空を結ぶ交通の要衝でもあり、CO₂を排出する企業ばかりではなく、それを利用する企業との連携など、将来的な展開が期待できる地域である。

この地域には石油資源開発(株)勇払ガス田があり、石油・天然ガス開発の探査等による地下データも多く、安全に CO₂を貯留できる大規模帯水層の存在が確認されている。この種の帯水層は日本に広く分布しており、苫小牧沖での実証試験の成果は、今後の国内 CCS の基本的なモデルとなるとともに、国外へもその成果の発信が可能となる。

以上を踏まえ、CO₂削減のための有力な手段である CCS 実証試験の地元誘致に向け、地域一体となった苫小牧 CCS 促進協議会を設立する。

苫小牧 CCS 促進協議会は、実証試験誘致のため CCS に対する地域の理解や更なる環境意識の醸成とともに、将来的には既存産業と CCS 事業及び関連産業が連携し、地球環境と地域産業の活性化の両立が可能な低炭素社会構築に向けて、苫小牧が先導的な役割を担えるよう、地球環境サミットが開催されたこの地から世界へ向けて発信していく。

平成 22 年 4 月 20 日

苫小牧 CCS 促進協議会設立準備会